

## 大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (61)



～ 保護者と教師は、パートナー ～

石垣市教育委員会 学校教育課長 前三盛 敦

「将来は、学校の先生になりたい。」と卒業文集等で学級の子の夢を確認したとき、とても嬉しく思ったものです。第一生命保険会社が発表している「大人になったらなりたものベスト10」(2022)調査では、教師の仕事は、小学生男子のベスト10には入っておらず、小学生女子の8位になんとか入っています。いつの間にか教師の仕事は、ブラックと言われるようになり、実際に教員採用試験の受験倍率も年々下がる一方で、なりたい職業からだんだん遠ざかりつつあります。

教師は、子どもの人生に大きな影響を与え得る責任のある仕事です。それゆえ教師は、ほかの仕事では決して得られないやりがいや達成感、大きな喜びを感じることができます。授業中、子どもたちの「わかった!」「できた!」という笑顔を見るときや運動会、発表会で観客から感動の拍手をもらったとき、生徒指導で粘り強くかかわった子が変わったとき等、子どもたちの成長を共に喜び合えることは、教師の醍醐味だと思います。

しかし、教師は決して楽な仕事とは言えません。圧倒的な「仕事の量」と人間相手の感情労働という「仕事の質」の2つが、大きなストレスの要因となっています。また、本来の喜びである仕事の成果(子どもの成長)も、すぐに目に見えて現れるものでなく達成感が得にくいことも要因の1つです。

ではここで、教師の仕事の大体の流れを紹介します。教師は1日に4～6時間授業を受け持っています。そして授業が終わると翌日の授業準備を行います。しかし、放課後に職員会議や校内研修、学年会、教科会等の打ち合わせがあるときは、すぐに取り掛かることができません。さらに部活動指導もあり、授業の準備である教材研究は、退勤時間後になってしまうことがほとんどです。教材研究は、教科指導だけでなくICT教育、プログラミング教育、ユニバーサルデザイン教育、SDGs教育、インクルーシブ教育、キャリア教育、防災教育、環境教育、食育等、多岐にわたります。

また、学級経営においては宿題の準備や点検、係活動や当番活動指導、給食や清掃指導、学級だよりの作成、さらには、いじめ問題への対応、発達の特性に応じた個別支援、不登校の子ども達へのアプローチ、食物アレルギーを持つ子への対応などまだまだあります。

その他、運動会、修学旅行、社会科見学等の各種学校行事の企画、準備、運営、文科省や県・市教育委員会からの調査対応、各種大会やコンクールに向けた指導に加えて、ここ3年間は、新型コロナウイルス感染症への対応が業務の多忙化に拍車をかけています。

教育委員会の私が言うのもおかしな話ですが、教師の仕事は、一人の人間がかかえる業務としてはかなり厳しい状況にあります。実際に、OECDの調査(2019)で日本の教師の1週間あたりの労働時間は、平均56時間で世界48の国と地域の中で最長の結果となっています。

さて、教師の業務改善は、国、県、市が連携して取り組まなければなりません。教師のストレスの原因は、「感情労働」(看護師、介護福祉士、保育士等)であるといった人間相手の「仕事の質」にかかわる点も少なくありません。

近年、発達に偏りがある子ども、傷つきやすい子ども、低エネルギーの子ども等が増えており、一律の

指導は通用しなくなっています。また、保護者や地域の皆様からご意見やご要望に十分に応えることができず悩んでいます。

そこで、保護者や地域の皆様をお願いします。ぜひ、これまで以上に「子どもと一緒に育てていくパートナー」として、学校を支えていただけないでしょうか。もちろん、そのためには学校が、保護者、地域に対し開かれた学校でなければなりません。

「みんなの学校が教えてくれたこと」の著者で大阪市立大空小学校初代校長の木村泰子先生は、入学式で初めて対面する保護者に「みなさんは、今日から、大空小学校に通うすべての子どもたちのサポーターになります。おめでとうございます。」と毎年あいさつしたそうです。保護者の呼び方を「サポーター」に変え、名付け直すことで、自分の子どもだけを可愛がるような“保護者”なんて肩書きは捨て、意識を変えていただくように促しました。大空小では、保護者ではなく、サポーターとしての意見を貴重な宝物として受け止め、その意見を生かしていくことで、「みんなの学校」と成長していきました。

私は、教師と保護者は、「子どもの教育」という目的を共有して、同じ方向を向いて協力しあうパートナーだと感じています。「向かい合って、言いにくいことを言い合う関係」ではありません。「横並びにいて、ともに力を合わせる」パートナーです。

今、学校は Society5.0 の時代に向けて教育の転換を図っている重要な時期ですが、「学校は、仕事量が規定量を超えて、過積載で沈みかけている船のようだ」と例えられるほど、厳しい状況です。そのような中、最も頼りになるのが保護者、地域の皆様です。今後とも、よりよい学校を創るパートナーとして、ご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。 (参考著書:「いい教師の条件」 著:諸富祥彦)